

ワールドコミュニケーションクラブ会員募集中

このクラブでは、英語圏だけではなく、いろいろな国との交流に興味のある中・高校生が月に1回集まって活動をしています。

今年は、国際村のワールドバザールにボランティアとして参加して様々な国の人と交流したり、姉妹州であるコロラド州の学生と、スカイプというインターネットを使ったテレビ電話で交流したりするなど、バラエティに富んだ活動をしてきました。

学校の授業とは一味違った実践的な英語を、ゲームや料理教室を通して学べるだけでなく、海外にお友達を作ることもできます。ぜひメンバーになって、一緒に活動しませんか？詳しくは国際村へお問い合わせください！

対 象：中学生～高校生、高専生（外国人留学生も大歓迎！）

日 時：月に1回程度（土曜日、もしくは日曜日）

参加費：年間2,000円（1回無料で見学できます）



せがいの台所 韓国料理 参加者募集！

年6回、偶数月に開催しているせがいの台所。今年度も残り2回となりました。

12月15日(土)に開催予定の今回は、寒い冬にピッタリのピリ辛韓国料理。講師は大韓民国出身で市内在住の足達恵美さんです。足達さんは国際村の韓国語フリートーク講座の講師も務めています。

今回のメニューはクチョルパン（九節板）という宮廷料理と、ユッケジャンというスープに挑戦します。クチョルパンは小さなクレープの様な皮で野菜などを巻いて食べるもので、とても色鮮やかな料理。ユッケジャンは、辛味の効いたスープで、牛肉やもやしなどが入ったスープです。

料理を通して世界の文化を学べるこの事業。毎回応募者多数ですので、ぜひお早目にお申し込みください！

開催概要

日 時：12月15日(土) 10:00～13:00ごろ

場 所：出羽庄内国際村 2階 調理室

参加費：2,000円（賛助会員は1割引き）

持ち物：エプロン、筆記用具

申込み：11月18日(日)より受け付けます。国際村までご連絡ください。



彩り鮮やかな
クチョルパン

あ と が き

11月に入り、今年もいよいよ冬支度のことが気になる季節になりました。ついこの間までの夏の猛暑日の連続に苦勞したことが思い出されますが、皆さんも改めて庄内の季節の移り変わりを実感されていることと思います。

さて、本号では、今年度これまで実施した事業を纏めて掲載させていただきました。その中で特に、昨年度から山形県と共催して実施している「やさしい日本語」講座は、災害時など、緊急を要するときに外国人への情報の伝達方法として有効とされているものでありますが、在住外国人への災害時の支援の一環としてこうした事業に継続して取り組んでいくことも大切なことかと思えますので、関係の皆様にも積極的に参加していただきたいと思います。よろしくお願いします。

賛助会へのご協力をお願いします

国際村では、地域に国際交流の輪を広げ、より広範囲で有益な事業を実施するために、賛助会員制度を設けております。財団の設立目的に賛同され、事業および運営にご支援くださる個人、法人を募集しております。

《年会費》一般／3,000円、高校、大学生／2,000円、小、中学生／1,000円、法人／1口10,000円

《期 間》平成25年3月31日まで

会員特典

- 会報「国際村だより」の送付
- 主催事業のご案内
- 主催事業の参加料割引
- アマゾン民族館の無料入館
- 会報で団体名の紹介（団体のみ）

国際村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM



堅苔沢自治会主催「海の運動会」（7/29）に参加した国際村日本語教室の受講生



国際村だより もくじ

P 2・3：ワールドバザール

国際村音楽祭

P 4：コロラドスタディーツアー2012

P 5：アマゾン夏休み子どもフェスティバル

せがいの台所

P 6・7：日本語スピーチコンテスト

やさしい日本語研修会

出羽庄内国際村これまでの事業

フレンドシップサロン

P 8：ワールドコミュニケーションクラブ

せがいの台所参加者募集



アマゾン民族館

世界の民族と文化 好評開催中

開館時間 9:00～17:00

毎週土曜日は、小・中学生入館無料！

出羽庄内国際交流財団会報

vol. 58

Quarterly



第18回出羽庄内国際村 ワールドバザール

6月10日(日)、出羽庄内国際村の最大のイベント、第18回ワールドバザールが開催されました。当日は好天に恵まれ、朝から大勢の方々が詰め掛けました。中庭では世界各地の料理、館内では雑貨の様々な模擬店が並び、ホールでは中国雑技やお国ダンス、地元グループの様々なパフォーマンスが繰り広げられ、国際色豊かに盛り上がった一日となりました。

ワールドバザール実行委員長から お礼のひとこと

菅原 和夫

前日の準備の最中に少しずつ雨が降り始め、それでも、大勢の方々がテント設営や舞台準備に参加していただきました。ワールドバザールは準備の段階で8割が終わるようなものとよく言われます。当日は奇跡的に雨が上がって涼しく最高の天気でした。また、各団体から選出された実行委員の方々やボランティアの方々の手際のよさは素晴らしいと感じました。

ワールドバザールは市民と外国人と各団体を結びつける大切な事業です。なんども実行委員会を重ね意見を出し合い実現できました。

このワールドバザールに関わったすべての人々に感謝します。そして、また来年、このみんなの輪が広がってお会いできることを期待します。どうもありがとうございました。

ワールドバザール参加団体

明日葉の会、アンサンブル桜ヶ丘、ウガンダ山大チーム、カフェ バングラデシュ&ジャマイカ、カレーの会(鶴岡ユネスコ協会)、コロラドユースインアクション、金魚の会、国際ソロプチミスト 鶴岡、庄内日韓親善協会、庄内町国際交流協会、せかいの台所、タオライの会、だかし屋楽校、中国倶楽部、鶴岡市ボランティアセンター、鶴岡青年会議所、鶴岡ライオンズクラブ、二胡迷、国際村日本語教室、羽黒高校英会話部、Gospel Gleamers、ZIPPY Cheerdance Crew

フォトアルバム



世界の料理の模擬店



お客様で賑わう中庭広場



二胡の演奏



中国雑技の妙技



ウガンダダンス



フリーマーケット

DOS ORIENTALES Japan tour 2012



毎年、世界の民族音楽を紹介している国際村音楽祭。今回は9月17日(月・祝)に、スリリング ウルグアイサウンドへの誘い DOS ORIENTALES Japan tour 2012を国際村ホールを会場に開催しました。

2008年の国際村音楽祭でブラジル音楽を演奏したグループの中心メンバーの二人が、今回はウルグアイサウンドを引っさげて国際村に戻って来てくれました。ピアノとパーカッションのコラボレーションで、素敵なウルグアイサウンドとビートで心地よい一夜を堪能しました。演奏中にステージから客席に下り、会場を回りながらのパフォーマンスに、観客も一緒に手拍子で参加し、演奏者とお客様が一体となってみんなで作り上げる素敵なコンサートでした。

コンサート終了後の演奏者を囲んでの実行委員・スタッフの交流会では、懐かしい再会と近況紹介の話などで楽しく交流しました。

みんなでつくるコンサートです

出羽庄内国際村音楽祭は、普段なかなか聞く機会の無い世界の様々な音楽を、実行委員会を中心に、広く皆さんに紹介しているコンサートです。

聞いてみたい世界の音楽、みんなに聞いて欲しい民族音楽等がありましたら、是非実行委員として一緒に実現しましょう!

フォトアルバム



ドス・オリエンタレス(ウーゴ・ファトルーソ&八尋知洋)



7/27~8/10
(中高生)
8/3~8/10
(社会人)

コロラドスタディツアー2012

出羽庄内国際村では、今年も「コロラドスタディツアー」を実施しました。今年の参加者は全部で7名。高校生2名と高専生1名は7月27日から、社会人4名は8月3日からコロラド州デンバーを中心に滞在し、8月10日に全員が帰国しました。

今回のツアーはこれで5回目。昨年に引き続き、現地コーディネーターの村治孝浩氏に全体プログラムを、またホームステイについてはジム・キダー氏に調整をお願いしました。



【ホームステイ】

このツアーの大きな目的は、実践的に英語を学び、交流の中で国際感覚を養うことですが、それらを総合的に体験できるのがホームステイ。参加者は全泊ホームステイをし、家族との交流を深めました。ステイ先はデンバー大学に近い閑静な住宅街で、毎朝散歩をしたり、ホストの家族同士と一緒に食事をしたりと、家庭での生活を楽しみました。

【英語学習】

ツアー期間中、英語を母語としない人のための英語教育機関「スプリングインスティテュート」で、授業を受けました。短い期間でしたが、参加者それぞれのレベルにあわせて学べる内容になっており、最終日は全員が修了証をいただきました。スプリングインスティテュートは、留学生などのほか、アメリカに移民として来る外国人に対しても英語やアメリカ文化の指導をしている機関で、より実践的な英語やアメリカの文化の様々な面について学ぶことができました。

【自然・交流】

コロラドへのツアーの特徴といえば、ロッキー山脈をはじめとする広大な自然に直に触れることができる



ということでしょう。今回は幸運にも、コロラド在住者もほとんど見たことがないという、ビッグホーンシープやムース（ヘラジカ）といった貴重な動物を見ることができました。また、乗馬体験や湖までのハイキング、カヤックなど、自然の豊かさを満喫し、自然と人との関わりについても学びました。



期間中「コロラド日系人会ピクニック」へも参加し、毎年恒例となった、山形の芋煮の振る舞いや花笠踊りの披露なども行い、地元の皆さんに山形をPRしました。

◎参加者からの感想◎

- ・ホストファミリーの方がとても親切で、英語が上手く使えなくてもなんとかコミュニケーションができた。
- ・自然が素晴らしく、山歩きをしているときが一番元気で健康な自分を感じた。
- ・毎朝家の周りを散歩したが、家々の色や形、町の中の木の大きさなど、まるで夢の中にいるようだった。
- ・9時間の飛行機での旅はつらかった。
- ・食べ物が安いと思った。食べ物にはちょっと馴染めなかった。
- ・英語の授業がとても楽しかった。



夏 アマゾン子どもフェスティバル

アマゾンに住むインディオ達の生活について、より深く学んでもらおうと、毎年夏休みに企画している「夏休みアマゾン子どもフェスティバル」。今年は8月11日に開催、17名の子ども達が参加してくれました。



このフェスティバルではインディオの生活をより身近に感じてもらうため、毎年様々な体験コーナーを設けています。今年の体験は【カラジャ族の羽根飾り“ロリロリ”作り】、【アマゾンの楽器“シューバ”作り】、【インディオの主食の一つ“ベイジュー”作り】の3つ。羽根飾り作りでは、鳥の羽根一枚一枚をネットに結び付けていく細かい作業に苦戦していましたが、こうして時間をかけてイン



ディオ達の生活用具が作られている事に子ども達は驚いていました。

ベイジューは、毒抜きしたマンジョーカ芋の粉を土鍋で焼いて作るパンのようなもの。まずはインディオ達の毒抜き作業の映像を見てからホットプレートでベイジューを焼きました。ほんのりした甘さがあり、意外に子ども達も「おいしい」と言って食べていました。インディオ達の食生活に興味を持ち、映像で見たサルの肉のスープも食べてみたい！という声もたくさんありました。

体験を通してインディオ達の生活について学ぶこのフェスティバルも来年の夏休みが最終回です。来年も楽しくアマゾン体験しましょう！



ベイジュー作りに挑戦！

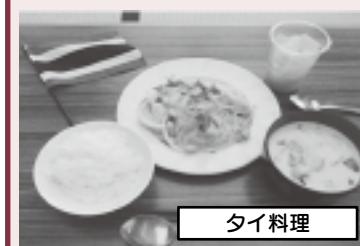
せかいの台所



バングラデシュ料理



ウガンダ料理

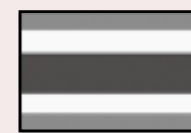
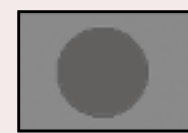


タイ料理

庄内在住の外国出身者に作り方を教わり、いろいろな国の料理を学ぶ講座「せかいの台所」。6月はバングラデシュ料理、8月はウガンダ料理、10月はタイ料理を教えていただきました。

バングラデシュ料理の講師はリンク・ラニさん。メニューはヤギ肉のビリヤーニに豆カレー、サラダ、ミルクティーの4品。

ウガンダ料理の講師はトニー・キンサンプエさん。メニューは薄



で丸める“ロレックス”、豆ソースを添えて食べるチコマンド、ビーフサモサ、野菜サモサ、アフリカンティーの5品。

タイ料理の講師はタニチャヤ・ブットミーさん。メニューはトムカーガイ、春雨サラダ、フルーツをのせた牛乳ゼリーの3品でした。

どの国の料理も大変おいしく、初めて食べる料理とその調理方法に目が釘付けになりました。今年度の料理教室は山形大学の留学生に講師をお願いする事が多かったのですが、自国の文化を紹介するとあって、講師の皆さんの熱意がすごく伝わってくる講座でした。

参加者も講師も一緒に楽しんで作る「せかいの台所」。次回は12月15日(土)韓国料理です。多くの方のご参加、お待ちしております。



10月のせかいの台所の様子

7/15 (SUN) 日本語スピーチコンテストin庄内



庄内の2市3町共同で開催した日本語スピーチコンテストは、昨年に引き続き今年は2回目の開催となりました。今回は庄内町文化創造館「響ホール」を会場に、地元の庄内町国際交流協会が実行委員会の事務局となって開催しました。このコンテストは、外国出身者が日ごろの思いや考えなどを発表することで、日本語能力の向上を目指すと同時に、日本人が地域の外国出身者の思いを知り、お互いの理解を深めることを目的としています。発表者の対象は、主に庄内在住の外国出身の方です。

今回はウガンダ、エジプト、韓国、ニュージーランド、中国、ドイツの6か国の出身者、計7名が参加しました。参加者の在日年数は2年から24年まで幅広く、日本語のレベルも違いましたが、日本での生活を通して感じたことや母国と日本との生活習慣の違い、人と人との絆、震災後の日本についてなど、皆さん様々なテーマでスピーチしました。

審査員は日本語の表現力やスピーチ内容などを総合的に審査。今年の大賞は「文化の違い」と題して発表した

ニュージーランド出身のバンティング・ティムさん、優秀賞は中国出身の佐藤瞳さんとドイツ出身のマルクス・ロスケンさんで、発表のタイトルはそれぞれ「幸せな私」、「重い犬」でした。7名の発表者の皆さんが、自分の体験や考えを率直に発表し、笑いあり涙ありと、様々な意味で来場者に感動を与えたようでした。皆さんのスピーチ内容は、後日庄内日報に掲載されました。

審査発表までの時間、ハワイのダンス・フラと中国の伝統楽器・二胡の演奏も披露され、会場は和やかな雰囲気の中、異文化に触れる機会ともなりました。

この日本語スピーチコンテストは、来年も開催する予定です。庄内在住の外国出身の皆さん、奮ってご参加ください。ぜひこの場を使って自分の普段の思いや考え、皆さんの貴重な経験などを発表してみましょう。

国際村日本語教室から出場した佐藤瞳さん



自分の言葉で表現出来た事をとてうれしく思います。家族を含め、応援サポートしてくださった方々、感謝いたします。次回の開催にも多くの皆さんが参加されますように期待しております。

9/2 (SUN) 「やさしい日本語」研修会

9月2日(日)、鶴岡では2回目となる、「やさしい日本語」研修会が開催されました。参加者は25名。講師は前回に引き続き、大東文化大学外国語学部講師の前田理佳子先生でした。

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のこと。阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。そこでそういった人たちが災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが「やさしい日本語」です。(弘前大学人文学部社会言語学研究室HP参照)

すべての情報を多言語に翻訳、通訳して伝えるのが一番ですが、災害時には、時間的余裕ありませんし、通訳できる人がすぐ近くにいるとは限りません。そこで有効なのが「やさしい日本語」です。

今回の研修会では、「やさしい日本語」とは何か、なぜ必要か、また作成の手順などについて学び、その後実際にやさしい日本語に変換するワークショップを行いました。

これはワークショップで、実際に使った例文です。「高台がないところでは、頑丈な鉄筋建築に避難してください。」

日本語が母語の人にはすぐ理解できる内容ですが、日本語に不慣れな人にとっては、「避難」という一番重要な言葉も難しい日本語です。これを「やさしい日本語」に言い換えると、このようになります。

「海から遠い、高い所に逃げてください。大きいビルの上に逃げてください。」

「やさしい日本語」にするには、いくつかルールがあり、それを取り入れることで変換が可能です。また、災害時のみだけでなく、普段の生活でも使うことができます。「やさしい日本語」は基本的に、日本語検定3級(2,500語を知っているレベル)の言葉で作成するので、高齢者や子どもにとってもわかりやすい日本語になります。

研修を受けた皆さんには、日常的なところから「やさしい日本語」をより多く取り入れていただきたいと思います。

出羽庄内国際村これまでの事業

5/27 コミュニケーションの達人になる！
～言葉を超えて絆を深める方法～

アメリカ・コロラド州在住の村治孝浩氏を講師に迎え、より良いコミュニケーションの方法を学ぶ講座が開かれました。様々なゲームを通し、相手との空間の取り方や座る位置など、日常生活からビジネスの場まで幅広い場面で活用できるスキルを、体感しながら学びました。



6/9～6/17 コロラド州訪問団来鶴

去年は地震の影響で来日ができなかった、アメリカ・コロラド州からの訪問団。今年は14名のメンバーが、9日間滞在しました。

滞在期間中は庄内地域の各家庭にホームステイしながら、地元の小学校や高校との交流、国際村のワールドバザールに参加、羽黒山登山など、様々な活動をしました。



フレンドシップサロン

フレンドシップサロンは、海外などで様々な分野で活躍されている方をゲストにお招きし、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ「お話しサロン」です。

6/2 オートジャイロで
世界一周に挑戦中

ゲストスピーカー は北アイルランド出身のノーマン・サープラス氏。現在世界で初めて、オートジャイロという小型飛行機での世界一周に挑戦しています。フレンドシップサロンでは、故郷北アイルランドのラーンから、地球を半周して昨年庄内にたどり着くまでのお話をしていただきました。

これまでの旅の様子がたくさん写真とともに紹介され、英語によるプレゼンテーションでしたが、とてもわかりやすくお話を聞くことができました。



7/29 堅苔沢地区 海の運動会

今年も、堅苔沢自治会の皆さんからご招待いただき、日本語教室の学習者や指導者など21名が海の運動会に参加しました。

参加者は海ならではの競技、箱舟競争や水上綱渡りなどに挑戦し、それぞれ思いっきり海を満喫しました。



9/30 日本語教室ブドウ狩り&いも煮会

日本語教室の学習者とその家族、ボランティアの皆さんが、櫛引地域の観光ブドウ園で、ブドウ狩りといも煮を楽しみました。参加者は32名。いつもの学習スタイルとは違った、実践的な日本語会話を楽しみながら、それぞれ交流を深めました。ブドウも食べごろで、珍しい品種などもあり、皆さん大満足でした。



9/8 オラ エスパーニャ!
¡Hola, España!
～太陽の国 スペイン編～

ゲストスピーカー はスペイン・コルドバ出身のブランカ・デ・ラ・プエンテ氏。

スペインの基本情報、歴史、経済などについての解説の後、プロジェクターでスペインの画像を映しながらスペインのお祭りや料理等、スペインの文化について紹介していただきました。

通訳ボランティアの高野あき氏にサポートをお願いし、参加者は今まで知らなかったスペインについて、学ぶことができました。

